



# 学校だより

横浜市立六つ川台小学校

令和2年1月31日

2月号

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

E-mail:[y3mutukd@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp)



## スタイルを貫く姿勢

副校長 薄田 秀明

新しい年が明けて、もう1か月が経とうとしています。今年は「オリンピック・パラリンピックイヤー」です。昨年はワールドカップラグビーが大いに盛り上がりましたが、正月から駅伝、高校サッカー、大相撲初場所など、スポーツがさらに盛り上がっているように感じます。特に全国高校サッカーの決勝戦は、青森山田高校の2連覇か、静岡学園の単独優勝か、個人的に手に汗握る一戦でした。

年々高校サッカーの技術レベルが向上しているのは驚きます。24年ぶりに単独優勝した静岡学園は、あの“キング・カズ”（三浦知良選手）も在籍していました。しかし、三浦選手は途中ブラジルへサッカー留学をします。

静岡学園は個人技を駆使してゴールに迫る伝統の攻撃サッカースタイルで、「静学スタイル」と言われています。その生みの親は、総監督の井田 勝通氏です。半世紀近く前から、目先の勝利だけでなく、選手の将来を考え、一人一人の能力を引き出す指導に当たったそうです。そして、長年にわたって支えてきた理念は、「サッカーの楽しさと感動を追求し、勝利を目指す」だそうです。そして追求したのは「考えるサッカー」で、選手が自分で考え、自分の強みを作り上げることに努力する過程を大切にしてきました。監督の言葉に、

「選手たちの心に火をともしには、まず指導者が高い志を持って、燃えてないといけないんだ。」

「常識を打ち破れ」

「独創性をとことん追求しろ」

「真剣さのみがヒトを人とし、努力と汗のみぞ天才を作る」

【出典：静学スタイル】より

「100万回ボールに触れ」のとおり、ボールコントロール技術を大事にする練習に取り組み、サッカーだけでなく人間的成長をも促しています。

この井田総監督から多くの選手、指導者が誕生し、全国から静岡学園でサッカーをやりたいという子どもたちが多くいます。伝統を大切に、スタイルを変えず徹底的に取り組むことで、子どもたちは鍛えられ、人材を育成する凄さに感動しました。

この姿勢は我々教職員も同じです。「子どもの持つ力」を引き出し、「子どもの幸せ」を願う思いは変わりありません。先日の「保護者アンケート」に多くいただいたご意見やご感想を拝見し、日々、学級指導で一人一人の子どもに目を注ぎ、丁寧に対応する教職員の姿を評価してくださり、ありがたく感じています。もちろん完璧ではありませんが、いただいたご意見を来年度に生かしていきます。

今年度もあと2か月となり、どの学年も次のステージに向けて着実に成長しています。6年生は、卒業に向けての取り組みを進めています。1年生もたくましく成長し、お兄さんお姉さんになる準備をしています。桜のように厳しい季節を乗り越え、美しい色の花を咲かせるように子どもたちも鍛えられ、立派になっていくことを期待しています。

これからも学校・家庭・地域が手を携えながら六つ川台小学校の子どもたちを見守り、育てていくスタイルを大切にしていきますので、さらなるご協力をお願いいたします。